

宮城県審判トレセン(レフリーキャラバンフォローアップ研修会)を開催

12月4日(日)に松島文化観光交流館、松島総合運動公園を会場に標記の研修会を開催しました。

今回の研修会は「映像分析・課題解決の為の指導手法の実践」をテーマに設定し、参加指導者はゲームの映像を予め確認しての参加、当日は確認した映像をグループ毎に話し合った後に、課題解決の為の指導の手法である「チュータリング」「プラクティカルトレーニング」を実践しました。

また11月に開催されたJFAレフリーキャラバンのフォローアップ研修会としての目的も兼ねており、参加した指導者、審判員はキャラバンで学んだ内容を再確認しました。特に指導者は「自信」を持って笑顔で積極的に取り組む光景が多く見られました。



加藤 勝 審判委員長 コメント

今回の県トレセンは、11月に開催したレフリーキャラバンのフォローアップ研修として開催し、講師にキャラバンに引き続きJFAの石山昇S級インストラクターを講師としてお迎えし実施しました。今回は級を問わず多くのインストラクターにご参加いただき、内容盛りだくさんで事前に宿題も出されましたが、参加インストラクターの積極的な取り組みにより大きな成果がありました。この数回の研修会で取組姿勢が変わってきたように感じ、インストラクターとして自信を持ってきている方が増えてきているように思います。今回の研修で学んだことを審判員に適確に指導していただき、県内審判員の更なるレベルアップにご尽力をお願いしたいと思います。2017年度のインターハイでは、誰が担当しても良いような準備をしたいと思いますのでよろしくお願いします。

南部 泰生 3級インストラクター コメント

今回のトレセンは先月開催されたレフリーキャラバンの振り返りを兼ねており、10月の事前研修から始まった一連のキャラバン行事の締めくくりという位置づけでしたが、今回も石山S級インストラクターの指導のもと非常に充実した研修になりました。

事前に与えられたビデオを見て当該審判員の課題を見出し、チュータリングからプラクティカルトレーニングにつなげるという、指導の一連の流れを実践したわけですが、審判員に「自ら改善方法を気付かせる」ために「改善点を絞り込み、自分が審判員に伝えたいことを的確に表現する」ことの難しさを痛感しました。また今回はグループを組んでの作業でしたが、その中で諸先輩の貴重なご意見は今後自分で指導計画を立て、それを実行していく上でとても参考になるものでした。

今回のトレセンは、資格を取得したばかりの自分にとって今後インストラクターとして活動していく上で貴重な経験となりました。ご指導いただいた石山S級インストラクター、また企画・運営に当たられた審判委員会の皆様、まことにありがとうございました。

佐藤 賢治 3級インストラクター コメント

これまで講習は受けるのもでしたが、今回皆さんの前で話す機会を頂いたことに感謝しています。短時間で話すことをまとめるのは難しく、伝えたいことを絞ることの重要性を感じました。自分では話すことをまとめていたつもりでも、研修会で人前に立つと話す順番が飛んでしまったり、次のことを考えて相手が聞いているかどうかがおろそかになってしまいました。今回の経験を今後の活動に生かしていきたいと思います。